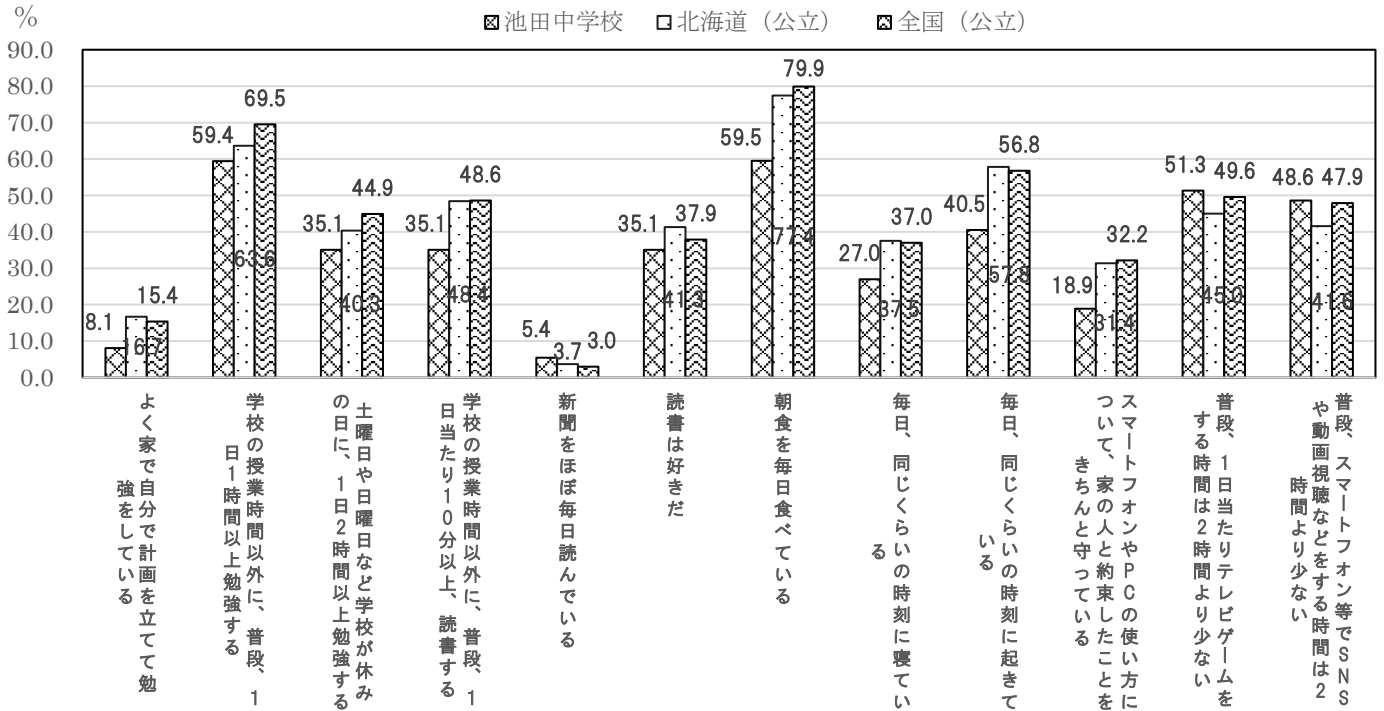


<学習状況調査の傾向（中学校）>

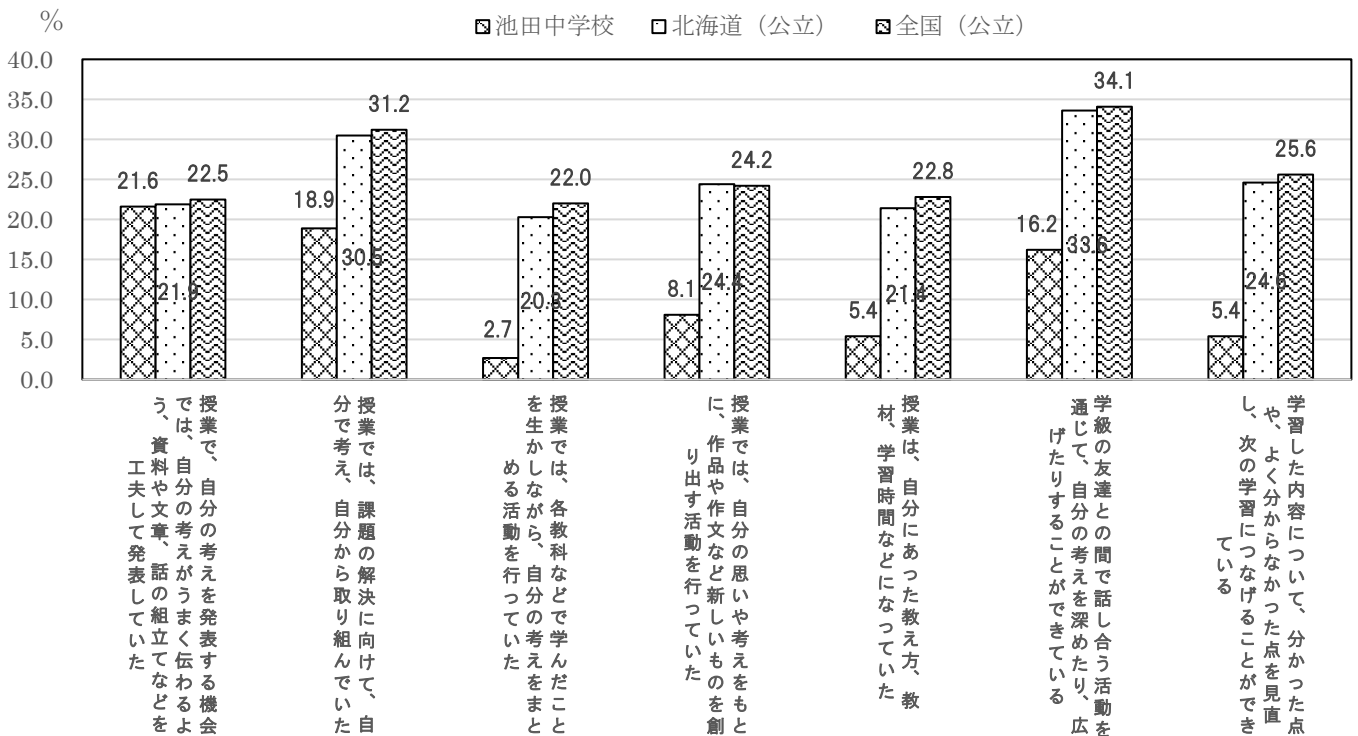
1 「学習・生活習慣」について

学習習慣、生活習慣



2 「学習意欲等（主体的・対話的・深い学び）」について

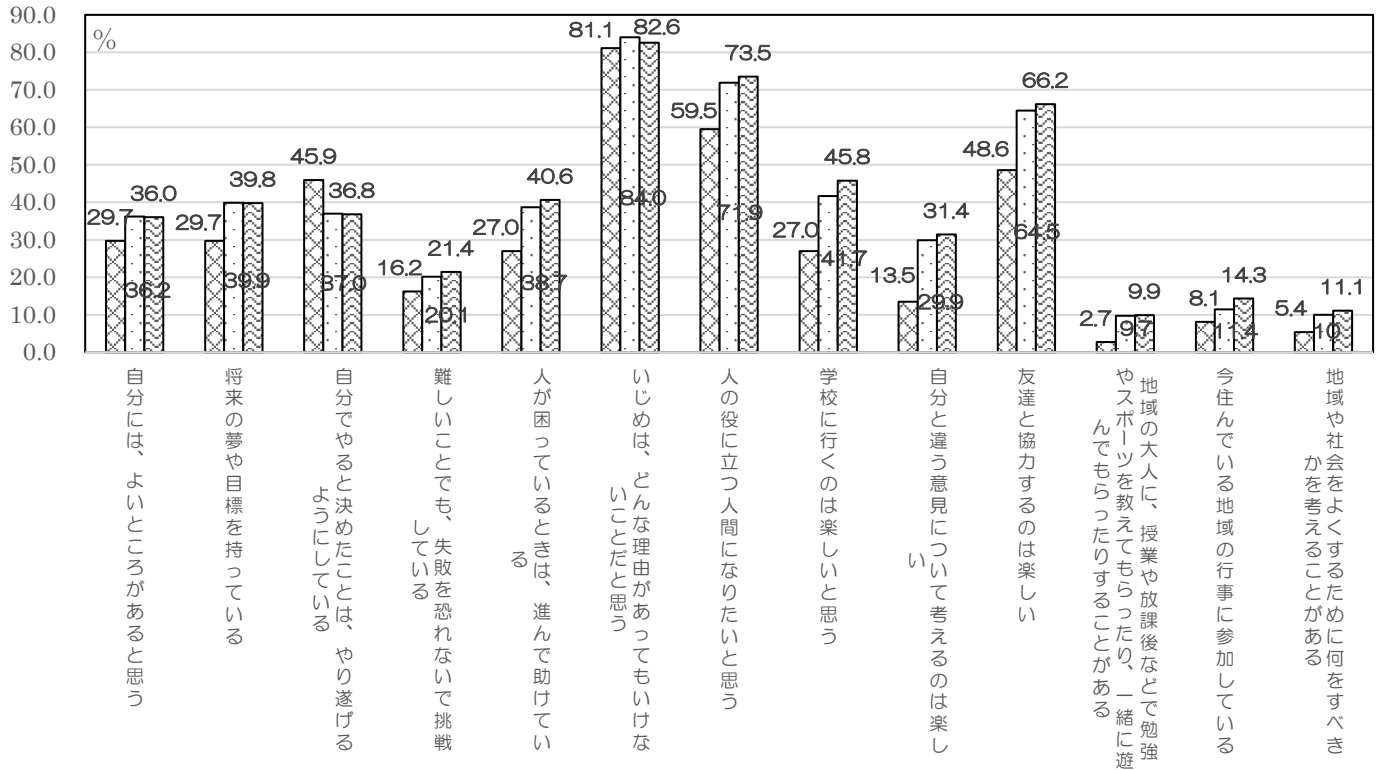
学習意欲等（主体的・対話的・深い学び）



3 「自尊・規範意識、地域社会等」について

自尊・規範意識、地域社会等

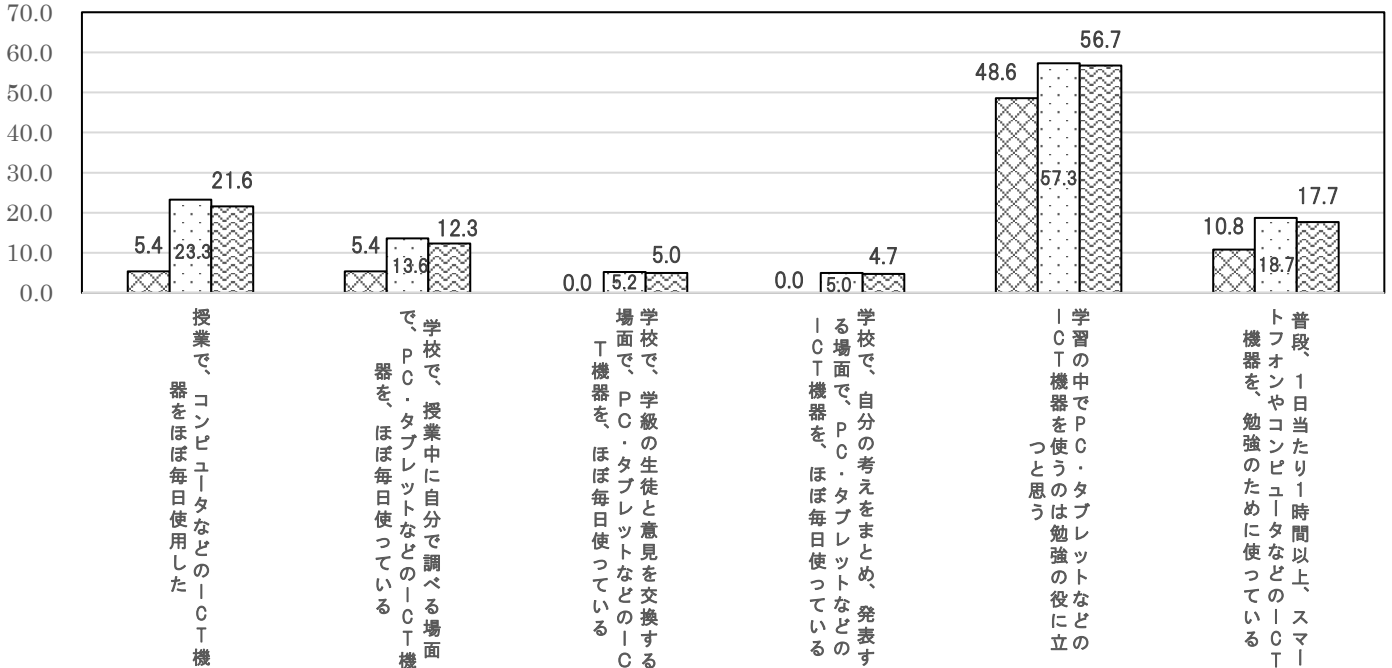
■池田中学校 □北海道（公立） ▨全国（公立）



4 「ICTを活用した学習状況」について

ICTを活用した学習状況

■池田中学校 □北海道（公立） ▨全国（公立）



5 考察

「学習・生活習慣」では、「朝食を毎日食べている」、「スマートフォン等の使い方について、家の人と約束したことをきちんと守っている」、「普段1日1時間以上勉強する」など、多くの項目において全国より低い傾向となっている。家庭との連携・協働、コミュニティ・スクールの仕組みを生かした取組など、基本的な生活習慣をはじめ、家庭学習や読書習慣の確立に向けた多角的な取組が必要である。

「学習意欲等」では、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」、「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」、「授業は自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた」など、すべての項目について全国より下回っている。学習の振り返りや見直しを持たせる学習指導を継続するとともに、生徒が自分の考えを深めまとめる学習活動の場面設定など、生徒の主体性を引き出し、深い学びの実現を図る授業改善が必要である。

「自尊・規範意識、地域社会等」では、「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」の項目が全国より上回っており、目標達成に向けて努力する意識が高い傾向が伺える。一方、「学校に行くのは楽しい」、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」、「友達と努力するのは楽しい」など、自尊・規範意識の多くの項目は全国より下回っている。社会性の基礎となる「人と関わりたい」という意欲を高める自己有用感を育む指導を継続するとともに、自尊・規範意識を高める手立てが引き続き必要である。「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した生徒が81.1%であり、全国よりやや低くなっている。いじめ防止の意識をより一層高めるために、全教育活動を通して組織的に指導を継続する必要がある。地域との関わりについては、すべての項目において、全国よりやや低い傾向となっている。

「ICTを活用した学習状況」では、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つ」の項目は全国よりやや下回っているが、ICT機器の効果的活用が学びの有効な手段として認識されていることが伺える。「ICT機器の毎日の活用頻度」については、該当する項目においてすべて全国より下回っており、「個別最適化された学び」の実現に向け、より一層授業の中でICT機器を効果的に活用することが必要である。